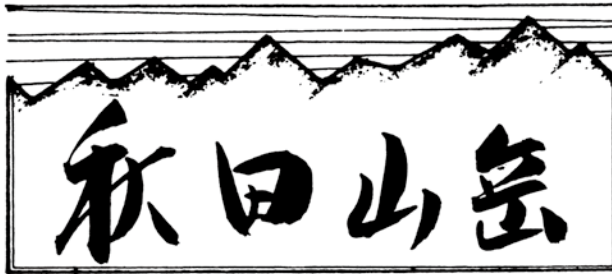


2019



令和元年 5月 発行

No. 111

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行 秋田支部
編集 鈴木裕子

平成31年度 秋田支部総会

平成三十一年度 秋田支部総会 支部設立六〇周年記念事業等決まる

平成三十一年度秋田支部通常総会は四月六日(土)午前十一時から秋田市の協働大町ビルにおいて開催された。

総会開会の前に、昨年十一月に他界した故寺田新一会員と四月三日、総会の三日前に他界した故佐藤昭義顧問に黙祷を捧げた。

総会は鎌田事務局長の進行で始まり、会員総数五十三名、出席十八名、委任状提出会員二十三名を確認。

はじめに鈴木支部長から、日頃の支部運営に感謝している事、全国の支部でも課題である会員の高齢化等にもめげず、公益的事業を実施していることを誇り思う。今年度は元号が平成から令和に変わり、支部設立六十周年の年に当たるので支部運営に一層の協力依頼の挨拶があった。

続いて三浦眞六委員を議長に指名して、案件の審議が行われた。

案件一 平成三十年度の事業について鎌田事務局長から報告。春・秋の支部山行の外、三回の声かけ山行、三回の役員会、新年会等での交流を報告。

岩手・宮城・秋田の三支部による栗駒山でのメモリアル合同登山、北海道支部の担当で行われた全国支部懇談会、山形支部担当の東北・北海道地区集会、支部合同会議、支部連絡会議、本会年次晩餐会出席等の報告。

公益的事業として太平山山開き市民清掃登山への協力、山の環境整備県民協働事業で太平山中岳標柱設置に協力、太平山前岳歩道整備や案内板設置等。会報の発行は四回、支部だよりは六回発行の報告。

案件二 平成三十年収支決算について、石川会計担当委員が報告。役員の本会主催会議に出席する出張交通費の負担が大きいのではないかとの意見があった。これからの課題としたい。

会計監査は、四月一日、秋田市アルヴェの市民交流室で行われたが、柴田監事が怪我のため入院中で欠席、鈴木支部長、鎌田事務局長立会いのもと、大橋監事が行ったが、大橋会計監事が故佐藤昭義顧問の葬儀と重なり、急遽欠席。よって監査報告は鈴木支部長が、大橋監事の監査結果「関係書類が適正に処理されていることの報告」を代読し、承認された。

案件三 平成三十一年度事業として、春の支部山行が大館市の「石ノ塔」に決まり、山行委員から説明があった。

五月に、全国支部懇談会が(栃木支部担当)、十月に東北・北海道地区集会が(宮城支部担当)行われると説明があった。多くの会員の参加を期待したい。公益的事業として、太平山山開き清掃市民登山、太平山登山道整備への協

力が説明された。会報の発行は五回を予定。支部だよりは随時の発行。県内各山岳団体との交流、秋田県自然保護課の登山道等整備事業への協力等が説明された。

案件四 平成三十一年度予算案について石川会計担当委員から説明。事業計画、予算案ともに承認された。

案件五 秋田支部設立六十周年記念事業について。

既に三十年からスタートしている県内の山六十座ラリーは、平成三十一年三月三十一日現在五十四座が報告されている。

記念山行は、七月十三日(土)～十四日(日)に太平山集中登山を行う。



長岩名誉顧問寄贈の横断幕の前で

記念式典・祝賀会は、十月十九日(土)鶴の湯温泉・山の宿で開催。
記念講演については、秋田県・山岳、もしくは観光等の親しみやすい内容が良いのではとの意見が多かった。
翌日、二十日(日)の記念山行は、小白森山・大白森を予定。

記念誌・合本発行の作成費については、会員の負担金で行うことが承認されて、総会は終了した。

また、入会希望の三浦昭男さんが入会申込書を持参し、総会・懇親会共に出席し、紹介された。

総会終了後の懇親会は、佐藤和志副支部長の挨拶に続いて、本年永年会員となる奥山清明会員の乾杯の発声で始まった。

懇親会は、山情報の交換、お互いの活動状況等、久しぶりに会う方々、初めて総会に出席した方もおり、会員相互の交流を深め、午後三時三十分頃、堀井弘副支部長のホームページ演奏により、「ふるさと」の全員合唱と、お開きの乾杯で散会した。

総会・懇親会共、会員の意見交換、協議等、話題にあふれ、有意義な会であった。

御芳志 厚くお礼申し上げます。
八千円 鈴木要三
五千円 鈴木裕子 鎌田倫夫
三千五百円 安藤金栄
佐々木民秀 今野昌雄
石川祐子
三千円 進藤昭 長岩嘉悦

総会出席者

佐々木民秀 奥村清明 佐藤和志
今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘
鎌田倫夫 佐藤博 高橋忠雄
川口廣志 石川祐子 三浦真六
佐々木長秀 安藤金栄 熊谷光子
後藤浩二 藤田正義 佐藤英貴
三浦昭男(新入会員)

(事務局長 鎌田倫夫 報告)

佐藤昭義顧問は、平成三十年十二月に行われた年次晩餐会で永年会員に推挙されました。
佐藤会員は、昭和四十四年一月に入会され、平成三十年で五十年間在籍。

新入会員紹介

三浦昭男

No.一六四九五

秋田市広面字川崎四七一―一
昭和二十年十一月三日生
入会 平成三十一年四月
紹介者 鈴木裕子 佐々木民秀

安全登山教室講座に参加して

鎌田倫夫

十二月十五日(土)・十六日(日)若手支部主催で盛岡市の朝日新聞総局を会場に開催された。

講師は日本山岳会副会長廣重恒夫氏で東北六支部から二十五名の参加。秋田支部からは私が参加した。

初日は机上講習で資料に基づき地図とコンパスの使い方・引率方法・危険箇所通過技術・ロープの結び方・事故発生対応と自力搬送法そして登山用具の説明などであった。

その後、宿泊先の紫波町の東根山の麓にある温泉地「ききょう荘」に移動した。

入浴・夕食の後にビデオで「日本山岳会ヒマラヤ登山」の紹介があった。
翌朝7時半に長めのストレッチ体操をした後に宿から歩き始める。林道脇の急斜面から登り始めた。全員ハーネスとアイゼン着用しザイルで五メートル間隔に結べとの指示があった。

藪山や林のある山ではジグザグに登ることによって滑落した場合立木が支点になる。地図とコンパスは直ぐ出せるようにして常に現在位置を把握しておくように指導があった。

下山時、ザックを使用した簡易担架で負傷者搬送訓練をした。廣重副会長が負傷者になり女性参加者も含めて交替で搬送した。午後一時、「ききょう荘」に戻り解散となる。

秋田支部自然保護委員 堀井副支部長の活動を紹介します

太平山自然学習センター、東北森林管理局等が主催する登山やハイキング、自然観察をサポート等の一部を紹介。

月日	主催	参加人数等
4月～10月 (計6回)	秋田市仁別植物園	他の会員と2名で担当。 1日の平均20名程度(一般)
5月24日(木)	太平山自然学習センター	秋田市山王中学校1年生90名 サポーター13名と太平山前岳登山
5月27日(土)	太平山自然学習センター	一般客15名、サポーター2名 太平山前岳登山
8月9日(木)	太平山自然学習センター	夏休みチャレンジ太平山前岳登山 小学校5～6年生20名
9月9日(日)	太平山観光開発(株)企画	一般客18名妙見山登山 (奥岳が雨天のため変更)
5月～11月 (計14回)	東北森林管理局	博物館内と仁別の森の案内 一般客1日平均15名

新年会に参加
後藤浩二

一月十九日(土)、午後五時から秋田市山王「夢幻海」で開催された。始めに、鈴木支部長から、日頃の支部運営に対する感謝と、三十一年度は支部設立六十周年の記念事業への協力をお願いすると挨拶があった。続いて川口廣志委員の乾杯で会が始まった。

佐々木民秀顧問から、十二月に富士吉田市の山中湖畔に登山口のある石割山(一四一三m)に登った時に見つけた「熊剥」、樹木を熊から守るためのプラスチック製シート(木の幹に巻きつける物)の実物と熊被害の貴重な映像(PC)の紹介があった。秋田県では使用されていないと思う。

私は昨年続き二回目の参加であったが、先輩会員の苦労話を聞くことができたほか、初めてお話しした方もおり、楽しい貴重な一時を過ごすことが出来た。楽しい会話が尽きなかったが、最後は佐藤博会員中締めでお開きとなった。

御芳志 三浦真六 いちい
柴田勲 三〇〇〇円

参加者 佐々木民秀 今野昌雄
柳田勇悦 若月寿 鈴木裕子
堀井弘 鎌田倫夫 佐藤博
高橋忠雄 川口廣志 大橋忠雄
石川祐子 安藤金榮 熊谷光子
後藤浩二 佐藤英實

台湾岳人
林照雄氏をお見舞いして
佐々木民秀

一昨年以來、旧知の岳友である神戸市の清瀬祐司氏(関西支部)と札幌市の桑田卓男氏から、我々も高齢になり、近々中に訪台しなければ、林照雄氏との再会は難しくなるのでは・・・との連絡が再三あり、二月十八日からの四日間の日程で、急遽闘病中の林氏のお見舞いと、台北市郊外の大屯山へのハイキングも兼ねて訪台したので報告する。林氏は秋田支部の訪台登山に長年に渡り尽力されてきた旧知の岳人である。十八日午後、台北市龍山寺駅近くのシーザーメトロホテル台北で、各々



林氏ご自宅の応接室で

病を押して、奥様の椰子さんと共にホテルに迎えて下さった林氏と久々にお会いした。夕食は、林氏の長女林俐姘さんの案内で、屋台のひしめく夜店へ。その後、お祭りで賑やかな龍山寺を参拝させて頂いた。

十九日早朝、有志で七年前に北大武山登山でお世話になった林哲全氏(照雄氏の親戚で、中華民國山岳協会東亜区部長)の案内で、陽明山国家公園内にある大屯山(二〇九二m)にハイキング、測候所の建つ山頂近くまで続く石段を登って、台北市街や対岸に七年前に登った七星山などを眺め楽しんだ。午後からは、林哲全氏のご配慮とご手配で、中華民國山岳協会を表敬訪問し、理事長の黃榭楠氏などと談話。

持参した「新高登山地図(昭和八年台湾山岳会発行)」と、その他の古い山岳資料を進呈し、喜んでいただいた。夕方、林照雄氏のご自宅でお集まり、長男ご夫妻、ご親戚の方を交え、歓迎の宴を開いて頂いた。これまでの長い親交に感謝し、思い出話等に懐かしさを募らせた。

二十日早朝、山岳協会の李麗錦さんの案内で、一行、九人乗り乗用車で今ブームの「野柳ジオパーク」と「九份」を観光。翌二十一日、ホテルを訪れた林氏を見送ってから、清瀬氏は関西空港へ、桑田氏は千歳空港へ、我々は羽田空港へと帰国の途についていた。

今回の参加者は、清瀬ご夫妻、桑田ご夫妻と佐々木夫婦、それに招聘を受けた鈴木裕子支部長の七名。

中華民國山岳協会を訪問
鈴木裕子

台湾・北大武山を案内してくれた林哲全氏と再会。哲全氏は、一月に、夏油スキー場でスキーを楽しみ、また、東京都内等を旅行したとのこと。林哲全氏のお手配で「中華民國山岳協会」事務所を訪問。大歓迎を受け感動。持参した「北大武山登山報告書」に目を通して、とても喜んでいただいた。宮城支部一行訪問の支部旗も展示されており、秋田支部もさらなる交流を深めていきたい。

今回、林照雄氏からお声をかけて頂き訪台一行に加えていただいた。秋田支部山行として台湾五岳を登ることが出来たのも、林照雄氏のご協力があればこそ。林氏にお会いし、これまでの訪台登山に感謝する機会に恵まれたことを嬉しく思う。



中華民國山岳協会事務室
左・林哲全氏 中央・黃榭楠氏
右・李麗錦氏

会務報告

◎第三回役員会

一月十九日(土)午後一時三十分から秋田中央市民サービスセンターで開催
◎現在の執行状況報告。
・六十座ラリーは現在四十六座登頂。
・登山届 現在五十三件 口頭二十件。
◎三十一年度総会に提案する案件について協議。
・三十年度の事業報告、三十年度決算見込み等の説明。
・三十一年度の事業案、三十一年度の予算案等の協議
・会計監査は四月一日とする。
◎六十周年記念事業について
・記念誌や会報合本の作製費の負担金(案)を協議。
・記念山行は、太平山集中登山とし、本会山行委員会との交流を図る。
・記念品については、長岩名誉顧問からクリアファイルが届けられたことを報告。

◎振り込み手数料の改訂について
振り込み手数料が大幅に増となることと、これまで無償であった通知書が一通百八円となる。
三十一年度は、六十周年記念事業があり、会員には大きな負担をお願いすることから、支部年会費の振込料の会員負担については、三十一年度の状況を把握してから判断したい。

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫
石川祐子 佐藤博 川口廣志
三浦眞六 安藤金榮 熊谷光子
後藤浩二 柴田勲 大橋忠雄

◎会計監査

四月一日(月)、午前十時分から秋田市アルヴェエ市民交流室で開催。
三十年度会計決算の監査を実施。
柴田監事欠席

出席者 大橋忠雄 石川祐子
鈴木裕子 鎌田倫夫

事務報告

◎事務局会議

◎一月十二日、午後一時から鈴木宅。
・会報百十号、支部日より十四号発送。
・総会に提案する案件等の確認。他
◎二月二十八日、午後一時から鈴木宅
・総会のご案内及び支部日より十五号発送他。

◎四月十一日、午後一時から鈴木宅
・総会資料、会費納入のお願い、負担金のお願ひ、山行案内等発送。他
・六十周年記念祝賀会案内、次回役員会の進行等協議。

事務局会議出席者

鈴木裕子 鎌田倫夫 石川祐子

会員の動静

◎退会 斎藤恵子 (二十九年三月)

小笠原義雄 (三十年三月)

高橋洋二 (三十一年三月)

訃報

佐藤昭義氏

No.六六四三 永年会員

秋田支部顧問

病氣療養中のところ、

平成三十一年四月三日逝去

(享年八十才)

謹んでお悔やみ申し上げます
本会と秋田支部から、弔電とお花をお届け致しました
これまでの支部運営のご協力に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします



訃報

韓国岳人逝く

高完植氏

二〇一八年十二月逝去

(享年九十四才)

長年秋田支部との親交があった韓国山岳会同友会(元老会改称)会長を務めた高完植氏は画家でもあり、訪韓の度に秋田支部との交流を大事にしていたと、お世話になりました。心からご冥福をお祈り致します。

安光玉氏

二〇一七年二月逝去

(享年九十五才)

支部設立四十周年記念事業として行った韓国山岳会元老会との「雪嶽山・五臺山」交流登山の際に、安氏の山小屋に宿泊し、お世話になりました。心からご冥福をお祈り致します。

雑感

会報編集を六十三号(平成十七年)から担当して十五年が過ぎた。出来上がった会報に目を通すたびに、文字の大きさや文章の配置など、反省すること多々である。特に、参加者の記載漏れ、氏名の変換ミスを見つけた時は落ち込む。

もつと斬新な編集を、会報は公平にあるべき支部の事業のみ網羅すべき、記載漏れは無いかな、もつと多くの会員に投稿してもらえないか、等々をいつも考えている。

投稿を依頼してもなかなか引き受けてもらえないことも悩みの種。これは支部だよりもそうである。もつと気軽に投稿してもらえたらありがたい。

会報に目を通せばその年度の事がわかり、年表作成の基本となることを目標にしている。

支部設立六十周年記念として作成する合本も第三巻となる。編集者も高齢となり、そろそろ交代をお願いしたい。(鈴木裕子)